



# 【第48期初級陸曹特技課程「准看護師」入校式】

令和5年4月3日

4月3日（月）、自衛隊札幌病院准看護学院（学院長 野澤1佐）は、北部方面總監部から医務官小林1佐、防衛部訓練課長棕木1佐、人事部人事課長代理人人事2班長滝口2佐、防衛部訓練課長代理教育幹部堀3佐、北部方面隊最先任上級曹長高岡准尉のご臨席を賜り、多くの志願者の中から選抜され、北は北海道（名寄）から南は沖縄（那覇）の全国から集まった第48期初級陸曹特技課程「准看護師」27名（男性16名、女性11名）の入校式を挙行し、学生代表の鈴木士長は同期を代表して決意を込めた力強い声で申告を実施した。

入校式にあたり病院長（鈴木陸将）は、「本課程で養成される准看護師たる初級陸曹は、第一線から治療・後送の各段階において、傷病者救護・看護を担うという非常に重要な役割が期待されている。」と話し、学生に『自己錬磨』『思いやり』の2つを要望し、「修業における自己の目標を設定し、地道に日々研鑽するとともに、それぞれの場面において自分のベストを尽くし、目的意識と自発的な意欲を持ち努力を継続することは諸官に大きな成長をもたらす。与えられた365日24時間を自己錬磨のために有意義に使ってほしい。「また第一線における過酷な状況や疲労困憊の中で、傷病者を救うことは非常に厳しい任務ある。我々の仲間、負傷したら必ず助けてくれると衛生を信頼して任務に邁進している。そのためには、患者を思いやり、仲間を思いやり、「利他」の心を持って行動できる、使命感を持った衛生科隊員であることが求められる。人の痛み、苦しみや悩みを感性深く受け止め、人を思いやる気持ちが滲み出るような准看護師を目指してほしい。」と訓示した。

准看護学院長は、『ビジョン&ハードワーク』を要望し、「長期的目標を達成するのは容易ではなく、そのために多くの短期的目標を達成する必要があることから、平素より明確なビジョンを持ち、日々一生懸命に努力することが大切である。諸官一人一人が将来どのような准看護師たる衛生救護陸曹になりたいか明確なビジョンを持ち、それを達成するために今何をすべきかを考え、地道な努力を積み重ねてほしい。」と式辞を述べた。

北部方面總監部医務官（小林1佐）からは、「これからの2年間、多くの仲間とともに切磋琢磨し、そして、この中から准看護師のみにとどまらず、さらにその先の救急救命士、第一線救護衛生員を目指して自衛隊衛生において前線医療の中核を担うスペシャリストを目指してほしい。」と祝辞を賜った。

学生27名は、いただいた訓示等における激励の言葉を心に刻み、決意を新たに准看護師となるべく教育に臨む。



決意を胸に申告する学生



病院長 訓示



病院長の訓示を聞く学生



准看護学院長 式辞



北部方面總監部医務官 祝辞



集合写真